

NPO
法人

日本高山植物保護協会

JAFPA

2022.7.1 No.96

- 高山植物群落保全のための防鹿柵の設置
- 南アルプスにおける高山植物の保護活動
- 令和4年度理事会及び通常総会開催報告
- 各地自然保護団体との交流報告
- 通常総会後の観察散策レポート
- 南アルプス林道 観察行
- 静岡支部報告 令和4年度静岡支部総会
- 昭和大学北岳支部報告 令和4年度活動計画
- 高山に咲く花
- 高山植物一口メモ



南アルプス 荒川のお花畑
(写真提供：鶴飼一博)

高山植物群落保全のための防鹿柵の設置

理事兼静岡支部長：鶴飼一博

日本各地において、ニホンジカによる植生への影響がみられるようになり何年たったでしょうか。かつては植生が衰退してもニホンジカの影響とはわからずにはいましたが、各地から報告が相次ぐようになり、最近では、まず初めにニホンジカが疑われるようになってきています。

高山植物群落への影響が最初に報告されたのは、南アルプスの南部です。そして、約15年前には「将来北アルプスにもニホンジカが進出する」と、あたって欲しくない予想をしましたが、ついにそれが現実となってきました。信州大学の泉山教授の調査研究によると、大町市に生息するニホンジカが、6月に後立山連峰を越えて、黒部川に下り、立山で夏を過ごした後、9月に再び後立山連峰を越え、大町市に戻ってくるということです。

ニホンジカ対策として、一般的な対策である防鹿柵の設置について、これまで一度高山植物群落が衰退し

てしまうと、柵で囲んでニホンジカの影響をなくしても回復するどうか、わかりませんでした。しかし、最近、南アルプスの聖平や三伏峠の柵内では、かつてのお花畑と同様の姿に戻りつつあります。一方で、回復の兆しが見られないという箇所もあります。

そのため、現在では高山植物群落が衰退する前に、防鹿柵で囲んで保全しようという動きもあります。南アルプスの『荒川のお花畑（荒川前岳南東斜面のお花畑）』はその代表であり、ニホンジカの影響を受けることなく、毎年、ハクサンイチゲとシナノキンバイの見事なお花畑を形成しています。

これまで約20年間、南アルプスでは積雪量や地形、守りたい群落に応じた柵の素材、高さ、施工方法など試行錯誤してきており、様々なタイプの防鹿柵が考案されています。

今後、この技術が他の地域での植物群落の保全に役立って欲しいと願います。



南アルプスにおける高山植物の保護活動

理事兼静岡支部長：鶴飼一博

■南アルプス保全活動の経歴

昭和45年静岡県浜松市に生まれ、平成7年に静岡県に林業職として採用されました。

平成15年から4年間静岡県自然保護課で南アルプス国立公園等の担当になったのが、南アルプスの高山植物保護活動に携わるきっかけです。特に、静岡大学増澤先生からのお誘いで、静岡大学、明治大学と県の学術合同調査に参加したことが、現在の調査研究につながっています。

平成19年からは、南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークの事務局として、当会の会員として、南アルプスに通っています。

■ボランティアネットワークの概要

南アルプス高山植物保護ボランティアネットワークは、南アルプスの高山植物保護活動に関する提言をもとに、山岳団体や保護団体等で構成され、平成14年に設立されました。日本高山植物保護協会静岡支部には、当初より参加しています。

ネットワークの主な事業は、環境省や静岡県の受託事業です。通年型の防鹿柵（金網柵で1年中設置）の維持管理や季節限定の防鹿柵（ネット柵）の融雪後立上げ、降雪前撤去が主な業であり、裸地部の植生を復元のために伏工（ヤシマットの敷設）なども行っています。

具体的には、6月に三伏峠と茶臼岳の季節限定のネット柵の立上げ、7月に荒川岳のネット柵の立上げと聖平の金網柵の維持修繕、9月に三伏峠の金網柵の維持修繕と茶臼岳のネット柵の撤去、それに塩見岳の伏工、10月は荒川岳のネット柵の撤去といったところです。

7月の作業はちょうどニッコウキスゲが咲く時

令和4年5月15日本部主催のウェブ講演内容を講演者に寄稿していただきました。当日の講演内容の録画を見たい会員は本部事務局にお問い合わせください。

期に行っています。防鹿柵の設置効果が確認できるため、参加者からは好評です。

また、若い世代への普及啓発のため

に、高校生が参加しやすい9月に塩見岳の伏工を行っています。ヤシマットを担いで塩見岳を越える登山、そして雄大な間ノ岳や農鳥岳を見ながらの作業、ということ思い出に残るようです。

■事業の継続性

事業を継続していくうえで必要なことは、資金調達、主体の継続、リーダーシップ、それに作業者の確保だと思います。

行政が主体の場合は3~10年で事業に区切りがあります。大学が主体の場合は研究者の退官によって、また任意団体の場合はリーダーの引退によって、区切りが生じることがほとんどです。しかし、地域の祭りや伝統芸能などの長期間継続しているものは文化になっていて、リーダーが変わっても継続していることから、高山植物の保護活動も文化活動のレベルになればと願っています。

現在、作業の参加者の募集は、ホームページやSNS等のインターネットを利用しています。インターネットを利用できない方もいますが、ターゲット層を考えるとこれを利用することは大きいと思います。年間数名ですが、県外から参加希望のメールが届いています。

参加者は、リピーターと初参加者をほどよく組み合わせることが理想です。参加希望の倍率は1.5



聖平の植生変遷



食害前(昭和61年森健氏撮影)



食害後(平成18年)



柵設置後(令和3年)



倍以上のため、リピーターを抽選にしていますが、時おり不満の声が聞こえてきます。自分が携わった作業の効果を見てみたいという欲求や、すべての作業に参加したいという方の欲求を満たす事業展開ができるよう工夫したいところです。

参加者からアンケートをとって見た結果、3000m 級への登頂や、夏に参加した仲間と冬に懇親会をするのが楽しみといった回答があります。事業の継続には、参加者が作業以外にも楽しみを見出せることも大事なポイントのようです。

■植生変化と防鹿柵による植生回復

南アルプスの高山帯や亜高山帯にニホンジカが進出して、お花畑を餌場として利用していることから、亜高山帯の高茎草本群落の消失の危機にあります。ニホンジカによる採食によって、初めはシシウド、ミヤマキンポウゲ、センジョウアザミなどの嗜好植物が激減、それらがなくなると、バイケイソウ、マルバダケブキなどの不嗜好植物までもが採食対象となり、ゴルフ場のグリーンと見間違ふほどまで食べつくされます。

防鹿柵（植生保護柵）が設置されたことで、聖平では柵内でニッコウキスゲ群落が形成しつつあります。株数が増加傾向にあり、株も大きく成長し、花茎につく花数も増加傾向にあります。ただし、柵の位置によって、その増加速度や生育状況に差が見られます。ミヤマシシウドやセンジョウアザミと混合しているところでは、ニッコウキスゲの回復が遅いといった状況です。

三伏峠の柵内でも代表種のシシウドの個体数が増加しているほか、開花に至る種数、個体数とも増加して、多様性が戻って来ています。その結果昆虫類も増加傾向にあるように見えます。

季節限定のネット柵の場合、シカが亜高山帯に上がってくる融雪期の5～6月に設置できること

が植生回復のポイントになります。

■裸地化と植生復元

亜高山帯・高山帯は非常に脆弱で、一度破壊されて裸地化した場所の植生は簡単には復元しません。この植生破壊は、風雨や地表水、凍結凍上などの自然現象のほか、登山者やシカの踏み荒らしといった人為的、あるいは野生動物が原因で起こります。

植生復元のため地表面に今はヤシマットで被覆したり、丸太筋工を設置したりしています。種数は増加していますが、個体数の増加傾向はまだ不明です。凍結凍上によりマットを止めているペグが浮き上がってしまうことや、シカの踏み荒らしによってマットのめくれが確認されています。



人為的な植生の衰退や裸地の拡大は、登山ルールを守ることで防げるはずです。

■まとめ

高山植物は氷河があった証人であり、高山植物群落はライチョウや昆虫等野生生物の生活の場でもあることから、その重要性は誰もが認めるところです。また、高山帯の生態には未解明な部分が多く、将来有益なデータが得られる可能性もあります。高山植物は、お花畑といった素晴らしい景観を形成し、登山者に安らぎを与えてくれるという側面もあります。

そのため、南アルプスの貴重な財産である高山植物及び群落を保全し、次の世代に引き継いでいかなければなりません。

三伏峠の植生変遷



食害前(白旗史朗氏撮影)



食害後(平成17年)



柵設置後(令和3年)



令和4年度 理事会及び通常総会開催報告

事務局：山本義人

令和4年度の理事会及び通常総会を、5月21日山梨県笛吹市の芦川グリーンロッジで開催しました。昨年は同じ施設の屋外広場で開催しましたが、今年は5月というのに梅雨時のような日が続いて、この日も朝から雨模様で屋内での実施となり、施設の食堂を使わせてもらいました。コロナ禍の環境で一番感染対策がとれているのが、食堂のような場所だという考えからです。

理事会は10時から、通常総会は11時からですが、早くに来られた会員にはオブザーバーとして理事会にも参加してもらいました。令和3年度理事は22名、監事2名でしたが、改選期にあたり本部の理事1名と監事1名から退任の申し出があり、その補充および静岡支部と昭和大学北岳支部の新たな事務局長を理事に選任することが決まり、関西支部の理事を含め他の役員は全員再任が承認されましたので、令和4年度の役員体制は理事24名、監事2名となりました。

岩科会長、木内副会長、中村本部長はじめ6名の理事と1名の監事が参席され、他の理事全員からは再任の承諾または新任の就任承諾と合わせて議案については書面で表決して頂いていましたので、理事全員の満場一致で、議案はすべて可決されました。また今年度は改選期ということで、会長、副会長、専務理事の再任も併せて承認されました。参席した理事及び監事には自己紹介と近況報告をして頂きました。

理事会議案は総会議案でもある令和3年度の事業

報告と決算報告並びに監査報告、令和4年度の事業計画と収支予算案の承認に加え、理事の改選と協会の運営についてです。昨年は花博助成金事業として実施した大学生研修事業を協会事業として続けていくこと、観察会を充実させていくための実行委員会による運営、そのための本部スタッフの充実を図ることが承認されました。

10分程の休憩をはさんで通常総会が開催され、今年度も環境省関東地方環境事務所野生生物課 佐藤課長様と山梨県環境・エネルギー部 砂田次長様からメッセージを頂いています。総会開催案内を送った会員457人に対し、退会届と宛先不明16名を除く有効会員数441名の内、参席者18名と書面表決または委任状提出270名の合計288名の過半数の出席ということで、総会は成立し、議案も承認されました。総会終了後に協会事業に貢献して頂いた方に会長から感謝状を贈ることを紹介し、その後は自由な意見交換を行って頂きました。

木内副会長から、協会のことを知ってもらう広報活動として、他団体との連携や後援など交流の機会を充実させることの提案があり、岩科会長からも、以前葦毛湿原に行き地元の会員に案内してもらったことの説明を通じて、一番よく知っているのは地元の人で、その方たちと交流できることが大事だとの話がありました。



写真中央が岩科会長、
左は木内副会長兼昭和大学北岳支部長、
右は中村専務理事兼本部長

令和4年度理事会・通常総会の開催の様子

受付で検温チェックし、窓は開放、各自の席は透明なアクリル板で仕切られていて、マスク着用での開催となりました。理事会は7名、通常総会は18名の参席にて、予定通り開催され滞りなく終了しました。



事務局報告



会長挨拶



理事自己紹介



各地自然保護団体との交流報告

事務局広報：渡邊昭彦

JAFPA 事務局広報を担当して以来、JAFPA 本部としてどんな活動をすべきかずっと気にかけて、事務局の中でも今まで色々意見交換をしてきました。その結果、高山植物の植生や保護に関する web 講演会の開催、会員の裾野を広げる Facebook Group を運営・継続してきました。そして、今年度から自然観察会の実施を日本各地で行っていくことが総会で報告されました。

実際の植生保護活動は各支部や会員同士で行われていますが、本部として植生保護のために他にできることはないか？ 思いついたのは、植生調査や保護活動に精力的に取り組んでいる他の団体との交流です。日本中の植物保護団体が、どんな環境下で、どんな問題を抱え、どんな対策を講じているのか、データベースとして情報をどんどん蓄積していくところが JAFPA の存在意義につながるのではないかと考えたのです。また、その団体が困っている問題に関して JAFPA でサポート可能なことがあれば、可能な範囲で支援したいと考えたからです。

実家に近い伊吹山は数年前に登山道が崩落して以来鹿天国になってしまい、希少植物や固有植物が食い尽くされていることを以前から気にかけており、昨夏から伊吹山ネイチャーネットワークの事務局長の山下吉和氏、会長の筒井杏正氏とは電話やメールで意見交換・情報交換してきましたが、5月になって山下氏とお会いでき、現地の北尾根を案内いただきながら、植生の変化や同団体の課題等について伺うことができました。岐阜県側の登山道沿いの希少植物を保護するための鹿柵設置に関して行政の承諾と理解が得られたことから、今年鹿柵が設置される見通しで、具体的な作業要領が決まったら HP にも掲載しますが、関心のある方は直接本部事務局にお問い合わせください。

北海道のアポイ岳は、憧れの山で昔からぜひ訪れたいと考えていました。この山でしか見られないヒダカソウが絶滅の危機に瀕しているとの情報に接し、同山の植生保護活動をされているアポイ岳ファンクラブの事務局長の田村裕之氏、会長の田中正人氏と登山前夜に懇談会を設けていただき、ヒダカソウの現状や保護対策等について教えていただきました。翌日は、残念ながらヒダカソウはもう終わっていましたが、多くの固有種に出会えました。

他団体との交流は、今年度の総会での木内副会長の提言や岩科会長の意見ともよく合致するものであり、今後も他団体との交流を推進し、JAFPA が世間に認められるような広報活動を目指します。

伊吹山 現地視察の様子



左：アカヒダボタン。
中央：日本海の冷気が北尾根を吹き抜け、日本海側の植生も。
右：画面左中央は登山道崩落現場。

アポイ岳 現地視察の様子



上左：エゾキスミレ、上中央：アポイキンバイ、
上右：番号札あれどヒダカソウなし。下左：サマニユキワリ、
下中：ヒダカイワザクラ、下右：エゾオオサクラソウ

通常総会後の観察散策レポート

総会を終えて雨もひどくなかったので、同じ場所を繰り返し観察することも大事ということで、今年もスズラン群生地を訪れました。途中の芦川農産物直売所「おごっそう屋」で昼食をとっている間は雨もひどく降りましたが、花を観察散策する頃にはほとんど雨も上がっていました。

理事会はリモート会議で、通常総会は自然観察を兼ねて開催していくことで良いのではというご意見をいただいています。

事務局：山本義人





南アルプス林道 観察行

事務局：山本義人

新型コロナ感染の環境下は相変わらず続いています。植物調査と観察会の予行を兼ねて、南アルプス林道を歩いてきましたので報告します。昨年の朝熊山観察山行のような紀行文の掲載を期待されていることであり、また、このコースは団体ツアー旅行が開催されるなど人気の花観察場所でもあり、高山植物保護活動を普及するのに良い場所だと考えてのことです。

ツアー客の呼び込みに使われている花といえば、シナノコザクラ、ホテイラン、ムシトリスミレで、その花期を見込んで5月25日に実施しました。



シナノコザクラ



ホテイラン



ムシトリスミレ

3年前2019年5月22日にも訪れていますが、その時と比べて今年の方が少し開花は早いようです。今回は花観察よりも前回自生していることを知らずに見落とした花の調査が主目的です。北海道では珍しくないようですが、隔離分布している長野県のレッドデータで絶滅危惧1B類のヒメナツトウダイが、どのような自生状況を確認することです。

ナツトウダイより小型で、腺体の形状が異なるとあり、長野県南部、蛇紋岩地や石灰岩地に見られることをヒントに探してみました。はたして調査に同行してくれた会員が期待していた場所で見つけてくれました。トウダイグサ属はシカの不嗜好植物で、嗜好植物が採食にあったことで最近ナツトウダイが目立つように増えているのと同様、ヒメナツトウダイも増加していくのか、今後も観察を継続していきたいと考えています。



ヒメナツトウダイ

ホテイランを観察していると団体ツアーの二十数名がやってきて、近接撮影のため近くまで踏み入って撮っていききました。花の説明をするガイドはいても、観察マナーを指導できる添乗員がいないため、自然を楽しむとか理解するとかでなく、目当ての花の写真を撮るだけが目的になってしまい、これでは大事な観光資源が衰退してしまいます。保護活動をどのように展開していくか思案どころです。



踏み入った近接撮影、自生地が損傷



静岡支部報告

令和4年度 静岡支部総会

静岡支部長 鶴飼一博

静岡支部総会を书面表決で開催しましたので、支部長挨拶と令和4年度事業計画を掲載します。

■鶴飼支部長挨拶

理事就任と併せて静岡支部長を兼任する要請があり、事務局も新たなスタッフの協力体制を得て再出発できました。

ところで、私は静岡県自然保護課職員として、南アルプス高山植物の保護に携わってから、塩見岳、三伏峠、荒川岳、聖平、茶臼岳での保護活動実践のため、南アルプス通いが続いています。

また、これまでの活動を認めていただき、令和2年度より静岡県立農林環境専門職大学短期大学の大学教員に着任して、林業関係の講義や実技を教えながら、高山植物群落の回復や復元に関する調査研究も行っています。

現在、南アルプスの高山植物群落は、ニホンジカの採食により危機的状況にあります。皆様が見てきた南アルプスの美しいお花畑を後世につなげるため、静岡支部としてできることをやっていますので、引き続きご協力ご理解をお願い申し上げます。

■事業計画案

- ①静岡県、静岡市、南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク共催で研修会を開催する
- ②南アルプス高山植物保護ボランティアネットワーク及び特種東海フォレストが実施する下記活動に協力する

5月 茶臼岳植生保全活動（ネット柵立ち上げ）

6月 三伏峠植生回復活動（ネット柵立ち上げ）

7月 荒川岳植生保全活動（ネット柵立ち上げ）
聖平植生回復活動（金属柵の修繕等）

8月 本谷山ネット柵設置準備（事前調査）

9月 塩見岳植生マット敷設

三伏峠植生回復活動（ネット柵冬期養生）

荒川岳植生保全活動（ネット柵冬期養生）

- ③観察山行を8月に南アルプス千枚岳で行う

（注）コロナの影響により、事業計画に変更が生じています。ボランティア活動や観察山行へ参加希望の方は、鶴飼までお問い合わせをお願いします。

Tel: 090-6089-1691 E-mail: ymail-kaz@ymail.ne.jp

昭和大学北岳支部報告

令和4年度活動計画

昭和大学北岳支部長 木内祐二

昭和大学北岳支部は、新型コロナ禍による診療部活動の中止（令和2年度）あるいは縮小（令和3年度）により、高山植物保護活動の多くが中断あるいは制限されていました。令和4年度の夏季診療部活動は一定の制約はありますが、3年ぶりに本格的に再開する予定であり、それに伴い北岳周辺の貴重な高山植物保護のための活動も、学生部員を中心に積極的に取り組む予定です。

■令和4年の活動予定

1) 北岳診療所夏山活動期間(7月後半～8月中旬)の高山植物保護活動

- ①白根御池小屋、肩の小屋、北岳山荘に、高山植物保護を訴えるポスター(第11回日本高山植物保護協会昭和大学支部ポスターコンテストの入賞作品)を貼付

- ②北岳山荘を中心に高山植物の観察と保護パトロール

- ③北岳登山道のゴミ拾い

2) 高山植物保護活動に関する学習

北岳診療部と昭和大学高山植物保護サークルの合同で、2023年3月に「第11回高山植物とその保護活動に関する勉強会」を開催する。

3) 広報、啓蒙活動

昭和大学内の部活動や高山植物保護サークル等のサークル、学生や教職員、および地域住民に、日本高山植物保護協会の会報等を広く配布し、入会を呼びかける。

■令和4年度通常総会意見交換での提案事項

高山植物等の生物研究や環境保護などに関する関連団体(学会など)の大会やシンポジウムなどのイベントが開催される場合、JAFPAが後援(協賛、あるいは共催)を行うことで、JAFPAを積極的に広報し、他団体の会員に知ってもらうとともに、今後の連携・協力のきっかけとすることを提案させていただきました。

同様に、JAFPAの様々な取り組み(観察会など)も、その予定などを他団体の事務局に連絡し、HPなどで他団体の会員にお知らせしてもらえれば、参加者を増やすとともに、JAFPAの活動を知ってもらううえで有用と思います。

高山に咲く花

写真提供 鷗飼一博氏

令和4年5月15日の本部主催ウェブ講演会「南アルプスにおける高山植物保護活動」において、南アルプスの特徴として固有種や貴重種の宝庫であることの説明として紹介された花の写真です。



タカネマンテマ



タカネビランジ



ムカゴユキノシタ



サンブクリンドウ



コヒナリンドウ



シナノショウキラン

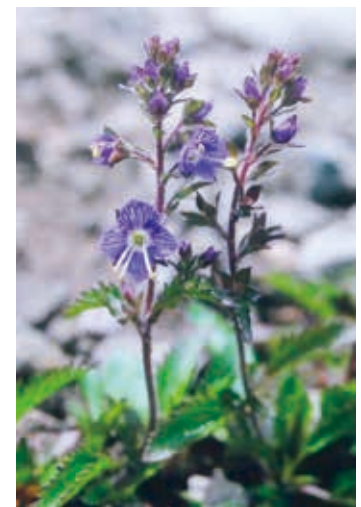
高山植物一口メモ ミヤマクワガタ オオバコ科

本州中部の高山帯の砂礫地に生える草丈 10~25cmの多年生草本。葉は対生で、根ざわに多く集まり、長い柄を持ち、葉身は卵状長楕円形で先がとがり、不整の鋸歯を持ち、長さ 2~4cm、幅 10~15mm、やや肉質である。夏、茎頂に総状花序をつけ、10~20 個の花をつける。花は径 1cm、紅紫色の花弁にはさらに濃色の条があり、二本の雄しべと一本の雌しべが長く花外に突き出ている。蒴果は平たい扇形で先端が浅くへこみ、中に円板状の数個の種子を持つ。

ミヤマは山奥のことで、果実を包んでいるガク片の様子が、兜のくわ形に似るところからクワガタの名が付けられている。

写真は 7 月の燕岳で撮ったもので、砂礫地に咲くミヤマクワガタの凛とした花姿が、柔らかい光の中に浮かんでいました。派手さはないけれど、なぜかほっとさせる力があるように思います。

(文と写真 大内京子)



令和4年7月1日発行

特定非営利活動法人 日本高山植物保護協会

住所：〒401-0304

山梨県南都留郡富士河口湖町河口 1672

(令和3年6月1日に移転しました)

電話：055-251-6180

携帯：070-1387-5274

E-mail アドレス：info@npo-jafpa.or.jp

HP アドレス：https://npo-jafpa.or.jp

